

古河市SDGsパートナー宣言書

団体名・企業名 鶴田電機株式会社
代表者職・氏名 代表取締役 鶴田 潤

次のとおり古河市とともに持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献することを宣言します

1：目指しているSDGsのゴール（または今後目指すゴール）【複数選択可】

					
					
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					※該当するゴールに ○を記入してください
<input type="radio"/>					

2：SDGsへの貢献に向けた組織を代表するビジョン・団体の方針

「ツルタは持続可能な世界への仕事を通し人格を高め、お客様と社員の幸福の創造をします。」

弊社では、2011年東日本大震災に伴って発生した福島県第一原子力発電所の事故を契機として、CO₂削減、太陽光エネルギー（再生可能エネルギー）への転換による「継続可能な社会」に対しての貢献をし、太陽光発電用トランクの開発・提供によって、より低炭素でクリーンな社会環境を実現します。

3 : SDGs への貢献や、持続可能な都市の実現に向けて行っていること

弊社は、主にトランスやパワーボックスの設計・開発を行っています。

これらの製品を作るにあたり、弊社では、「ものづくり企業」という立場から、エネルギー問題（目標 7）や地域貢献（目標 11）、産業・技術革新（目標 9）や製造業者としての責任（目標 12）、環境問題（目標 13）といった課題にも取り組み、SDGs の目標達成のために貢献していきます。

（目標 7）

- ・電気使用量、紙使用量の削減により、省エネを推進します。
- ・環境配慮型設計への取り組みにより、省エネを推進します。
- ・太陽光発電用トランスの製造により、再生可能エネルギー社会の実現に貢献します。

（目標 9）

- ・工作機械だけでなく、医療や半導体、再生可能エネルギーといった様々な業界に対しても、トランスやパワーボックスを展開し、新たな産業と技術革新の基盤づくりに貢献しています。
- ・アジアやヨーロッパの国々の規格に対応したトランス・パワーボックスの設計、製造も可能です。

（目標 11）

- ・雷サージ（落雷によって瞬間に異常に高い電圧が発生し、それに伴って発生した異常な電流により、電気機器に被害が生じること）から装置や回路を保護可能な耐雷トランスの製造も行っています。
- ・耐雷トランスによって装置・回路を保護し、落雷時の電気製品による事故を防止できます。
- ・社内に AED を設置し、さらに全国 AED マップに登録しているため、緊急時には地域の方々にも利用していただけます。
- ・地域経済を牽引する企業として、地域の雇用の創出をします。

（目標 12）

- ・製品不良や紙媒体の電子化といった紙使用量の削減により、余分な廃棄物の増加を防止します。
- ・環境に配慮した方法によって、有害物質の処理をします。
- ・ISO の規格に適合した製品を設計・開発します。

（目標 13）

- ・太陽光発電設備の導入といった再生可能エネルギーの利用や、休憩時間の消灯などの省エネの推進によって、電気使用量を減らし、CO₂ の削減・地球温暖化対策に貢献します。
- ・上記の具体的な目標として、2030 年までに CO₂ 排出量 0 を目指します。
- ・全量自家消費型太陽光発電システムの提案により、環境に優しい再生可能エネルギー社会への転換を促進します。

古河市や他の団体と連携可能な項目【複数選択可】

- ※該当するものにチェックをしてください。
- ボランティア 研修会・講演会の実施
- 知識・技術の提供 実証事業の実施
- イベント開催 寄付金・商品等の提供
- その他 ()

SDGsに関する取組を表す写真等の画像データ



鶴田電機株式会社 環境報告書（2024 年度）



〈はじめに〉

鶴田電機株式会社では、2011 年に発生した東日本大震災に伴う福島県第一原子力発電所の事故により、CO₂削減や太陽光エネルギー（再生可能エネルギー）の利用推進の重要性を再認識しました。しかし、国内の原子力発電所の稼働が停止したことや、それによって火力発電所の利用が増えたこともあり、CO₂の排出量は増加し、2016 年には一人当たりの CO₂排出量が、OECD（経済協力開発機構）の 35 か国中 27 番目となりました。このことからも、日本の CO₂排出量は、世界全体で見ても比較的多い方であり、SDGs の達成のためにも、今後は CO₂排出量を削減していかなければならないことが分かります。

そこで弊社では、太陽光発電用トランスの開発・提供によって、再生可能エネルギーの普及の後押しをし、持続可能な社会の実現に貢献することを目標としてきました。また、社内においても、2019 年度から太陽光発電システムを導入し、自家消費を行うことで電気の使用量の削減や、効率の良い電気の利用を実施しています。

また、災害等の緊急時においても、電力の確保を可能なものとするため、弊社では、蓄電池に関する研究を加速させています。蓄電池と太陽光自家発電設備の併用によって、停電時の電力を貯えるシステムの運用や開発が可能となり、CO₂排出量の削減だけでなく、緊急時の避難所としても活用できるよう様になります。

日本では、2050 年までに CO₂排出量を実質ゼロにすることが、当面の目標とされていますが、弊社では、「2030 年までに CO₂排出量を 0 にする」という目標実現のために、今後も省エネや再生可能エネルギーの利用・推進を継続し、低炭素でクリーンな「持続可能な社会」実現のための活動に取り組んで参ります。



鶴田電機株式会社

〈目次〉

1. 太陽光発電用トランスの出荷状況
2. 電気使用量の削減／効率化
3. CO₂ の排出量



鶴田電機株式会社

1. 太陽光発電用トランスの出荷状況推移

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	計
出荷台数(台)	573	958	1,496	2,019	3,544	5,427	4,013	18,030

太陽光発電用トランスは、2018 年に出荷開始以来、出荷台数は累計 18,030 台となっております。2024 年度においては、太陽光発電用電池等の不足等から出荷数量は鈍化したものの、引き続き再生可能エネルギーの推進に貢献できたものと考えております。

2. 電気使用量の削減／効率化

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2018年比較
電気使用量(kWh)	358,946	250,800	250,561	260,075	286,948	329,724	302,822	15.6%削減
電気使用効率(Ecut)	379.7	652.5	704.8	947.8	1138.1	953.1	771.4	391.7Ecut up

2024 年度においては、2018 年比 15.6% の電気使用量を削減することができました。また、電気使用効率 (Ecut) においても、大幅にアップしております。引き続き、電気の効率的な使用を継続してまいります。

3. CO2 の排出量

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2018年比較
電気(t)	197.5	125.9	110.2	112.2	131.1	150.7	166.7	15.6%減少
ガソリン(t)	25.9	20.4	18.8	20.8	18.9	19.1	16.0	38.4%減少
軽油(t)	21.8	18.8	22.9	26.0	28.2	45.1	42.6	95.5%増加
灯油(t)	14.7	10.2	5.2	5.6	6.7	8.9	0.0	100%減少
LPG(t)	0.9	0.6	0.5	0.5	0.5	0.9	0.8	11.1%減少
計(t)	260.8	175.9	157.7	165.1	185.4	224.7	226.1	13.3%削減

2024 年度においては、2018 年度比 13.3% CO2 を削減することができました。引き続き CO2 削減に向けて取り組んでいきたいと考えております。



鶴田電機株式会社